

令和7年度＜自己評価表1：各部等の取組（資料1）＞

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	本年度重点目標	評価	成果（○）と課題（●）
小 学 部	小学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、児童一人一人の可能性を伸ばしながら、集団生活でのルールを知り、学校や家庭でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。	①国語・算数や自立活動において、児童の実態に応じたグループ編成や教材研究を行うことで、授業改善に取り組むとともに、実践記録をストックし共有できるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容と実態に応じたグループ編成の工夫により、児童の成長を感じることができ手応えを感じている。 ○同単元の担当者で、使用教材について情報共有をした。 ●教材（データ、具体物）を整理して残し活用する。 ○校内研究において、指導実践を検証しながら授業の内容や時数などを検討中である。
	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付け、健康な身体づくりに取り組む。 ○ことば・かずなどの学習の基礎となる知識や、自分の意思を身近な人に伝える力を育てる。 ○自分や友達の良さに気付き、友達と仲良くしようとする態度を育てる。 ○身近な人との関わりの中で、して良いことと悪いことが分かり、決まりを守ろうとする態度を育てる。 ○毎日の生活や学習に、意欲や自信をもって取り組む態度を育てる。 	②コンプライアンスの遵守とともに、児童・職員の人権に対する意識を高め、互いを大切にする教育を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年において、自分と相手を大切に学習や人との距離感の学習等を行い、児童の意識する姿が見られる。 ○ちくちく言葉とふわふわ言葉の学習や友達の良いところを発表する学習、「嫌だ」と相手に伝える学習などを行っている。 ○クラスの中で、褒め合ったり励まし合ったりする姿が多くみられるようになった。 ●児童を「ちゃん」付けてなく「さん」付けて呼ぶことや、否定的ではなく前向きで肯定的な声掛けを積極的に行いたい。
		③学年間や学部間で、連携・協力した指導や学部内交流を行い、児童の夢や願いをもって主体的に学ぼうとする態度や、集団生活における自律心を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○1・6年生でミニ交流会を行い、関わりに広がりが見られた。 ○昼休みに、運動場などで他学年や中学生と遊ぶ機会が増え、遊具を譲り合うなどの姿が見られた。見守りを、他学級や他学年間で協力して行っている。 ○6年生「中学部の生活」では、中学部の説明や作業学習・バザー見学等を行い、児童は興味をもって取り組めた。高等部校内カフェや中学部龍踊の見学は、憧れにつながっている。

改善策について

重点目標の番号	改 善 策
①	①教材（データ、具体物）を整理して残し活用するため、実践記録のストックの仕方と管理方法・場所を具体的に決める。

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
中 学 部	<p>中学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を高めながら自律心を育て、学校や地域でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。</p> <p>○地域社会で生活するための、基本的な知識及び技能と、自ら健康な心身づくりに取り組む習慣や態度を育てる。</p> <p>○集団生活におけるルールや約束を理解させるとともに、生活を豊かにする各教科等の知識・技能を習得させる。</p> <p>○自分を大切にす気持ちや他者を思いやる気持ち、人間関係を形成する力を育み、地域との交流などを通して、互いに理解し合い、共に地域や社会で生きる基礎を育てる。</p> <p>○自ら進んで考えたり、我慢したり、正しい行動をしようとする態度を育てる。</p> <p>○学習に主体的に取り組む態度や課題に集中する力をはぐくみ、周りの人に自分の意見や考えを伝え、積極的に集団参加する態度を育てる。</p>	<p>①生徒一人一人の実態や発達段階を踏まえた教材研究や、生徒の実態に応じたICT機器活用と自立活動の検証を行う。</p>	A	<p>○生徒が、アプリを使ってバザーの会計をするなど、有効な使用場面で活用できた。ICT機器を用いることで集中力が高まる場面が見られ、適切に使うことは操作能力の向上にもつながるように感じた。</p> <p>○昼休みのタブレット使用を制限したことで、生徒同士の関わりが増えた。ICTに関しては、使用頻度を増やすことではなく、適切な使用を考える段階にある。</p> <p>○実態把握に向けて、自立活動部主任に生徒の様子を直接見てもらい、助言をもらえたことで、生徒の個別課題の妥当性を高め、指導計画作成に役立てることができた。</p>
		<p>②コンプライアンスを遵守し、自他の良さに気づき、認め合いながら自己肯定感を高める教育活動を実践する。</p>	A	<p>○虹のまつりに向けて、3年生と1年生が一緒に取り組めたことで、朝の練習等で先輩の姿を見ながら機敏に動くとする姿や、先輩として自制する姿がみられ、良い学び合いになった。</p> <p>○友達と協力する場面が見られる一方で、距離が近くなりすぎたり、言葉遣いが悪くなったりする場面が増える、全体での指導などが引き続き必要である。</p> <p>●教師の口調を真似して友達に注意する様子が見られている。教師側も言動に注意する必要があると感じる。</p>
		<p>③生徒、保護者が安全で安心して活動し、将来をイメージできる学びの実現に努める。</p>	A	<p>○高等部の進路指導主事から、高等部卒業後の先輩方の様子や、高等部入学までに身に付けて欲しい力等、中学部生徒に直接話してもらった機会を作った。働くことについてのイメージを高め、主体的に考える促しになった。</p> <p>○高等部作業体験をしたことで、高等部への関心を高めることができた。また高等部へ入試説明会を親子で聞く機会を設けたことで、生徒の進路への意識づけができた。</p> <p>○ベルマーク活動を校内実習に取り入れた。活動を通して保護者がどのような取り組みをしてくれていたかを知る機会になり、効果的な取組だった。</p> <p>●中学生になったばかりの段階では、保護者によって将来への危機感がまちまちである。伝えるタイミングと、伝え方の難しさを感じる場合がある。</p>

改善策について

重点目標の番号	改善策
②	②これまで同様、学部会での服務規律スピーチを持ち回りで実施し、話題にする場面を増やす。
③	③次年度は、高等部の協力で作業体験の時間を増やす予定である。家庭でも話題になる機会が増えると期待する。

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
高 等 部	<p>高等部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を最大限に生かしながら自立心を高め、より豊かな社会生活・職業生活を主体的に営む上で必要な資質・能力を育てる。</p> <p>〈普通科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校生活全般において、社会的自立に必要な生活習慣や身辺処理能力の定着を図る。 ○社会生活におけるルールや約束事を理解させるとともに、生涯を通じて生活を豊かにするために必要な各教科等の知識・技能を身に付け、自分の意思や考えを伝える力を育む。 ○他者の気持ちや考えを尊重し、豊かな人間関係を形成する力を育む。 ○豊かな社会生活を見据えて、目標と責任をもって自ら自律的に判断し、主体的に行動する態度を育てる。 ○興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、苦手なことや努力次第でできることにも挑戦しようとする態度を育てる。 <p>〈就業サービス科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的・職業的自立を目指し、各教科等の取組をとおして一般就労に必要な生活習慣の定着を図る。 ○社会生活・職業生活におけるルールやマナーを理解させるとともに、必要な専門的知識や技能、コミュニケーション能力を身に付ける。 	<p>①生徒の実態に応じた指導・支援を追求することで、各教科や自立活動の授業改善に取り組む。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画等を話し合う時間の設定を活用し、自立活動の指導などをしっかり時間を掛けて話し合うことで指導が充実した。 ○自立活動専任の教師や外部専門家活用事業を活用することで、授業改善につながった。 ○情報共有やケース会議を行い、進路指導や個別対応を進める中で、生徒の特性把握が進み、必要な支援が明確になった。 ●行事等への準備等に時間を要したり、時間割が多かったりしたことにより、継続的な指導が難しいことがあった。
		<p>②コンプライアンスの遵守を図り、互いを認め合い尊重し合う意識を高める取組を推進する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ○●心の教育や学級活動等での取組を通して、他者の良いところを認め合ったり、友達を思いやることにつながったりした。また、友達同士の会話や協力して活動する場面が増えた。ただし、生徒間の些細なトラブルや気になる言動は絶えないことから、そのようなことに教師が敏感にアンテナを張り、その都度、迅速に指導していく必要がある。(SNS利用や異性との距離感の指導を含む) ○生徒会生徒が生徒心得のルールを全生徒と一緒に確認したり、長期休業中の過ごし方について注意喚起したりしたことは、生徒の意識を高める上で効果的であった。

<ul style="list-style-type: none"> ○自立的態度や他者の気持ちや考えを尊重し、望ましい人間関係を形成する力を育む。 ○豊かな社会生活・職業生活を見据えて、目標と責任をもって自らの規範意識に基づき自律的に判断したり、主体的に行動したりしようとする態度を育てる。 ○興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、常に自己の課題を理解して解決を図ろうとする態度を育てる。 	<p>③現場実習等を通し、社会体験の充実を図るとともに、保護者と連携した生徒の特性に応じた進路指導の充実を図る。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ○上級生が「仕事の挨拶」の手本を見せたり、作業の方法を下級生に教えたりする場面を多く作ることで、互いに挨拶の声が大きくなったり、作業に対する姿勢が良くなったりした。このような取組が増えるとよい。 ○現場実習を通じて生徒が自信をもち、進路決定に向けた意識が高まった。また、保護者や実習先との連携により、適性に合った実習先を選定し、3週間の実習をやり遂げた生徒も多い。 ●進路に向けて意識が高い保護者と、そうではない保護者がいるので対応に悩むことがある。どのように進めていくか作戦を練って保護者に伝えていく必要がある。
---	--	---	---

改善策について

重点目標の番号	改善策
②	②コンプライアンスについて生徒が主体的に考えられるよう、教師主導の指導を改め、生徒同士の話し合いや共同作業等を取り入れながら指導する。また、SNSの利用の仕方等（トラブル回避を含む）については、これまで以上に注意喚起する。
③	③現場実習や進路指導については、学年懇談会等で、進路指導部から説明を行っている。対応が難しいご家庭はそれに参加していない場合が多いため、「説明会への参加を促すこと」と「参加できていない保護者への十分な情報提供」を充実させていく。

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
高 等 部 対 馬 分 教 室	<p>高等部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を最大限に生かしながら自立心を高め、より豊かな社会生活・職業生活を主体的に営む上で必要な資質・能力を育てる。</p> <p>〈普通科〉</p> <p>○学校生活全般において、社会的自立に必要な生活習慣や身辺処理能力の定着を図る。</p> <p>○社会生活におけるルールや約束事を理解させるとともに、生涯を通じて生活を豊かにするために必要な各教科等の知識・技能を身に付け、自分の意思や考えを伝える力を育む。</p> <p>○他者の気持ちや考えを尊重し、豊かな人間関係を形成する力を育む。</p> <p>○豊かな社会生活を見据えて、目標と責任をもって自ら自律的に判断し、主体的に行動する態度を育てる。</p> <p>○興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、苦手なことや努力次第でできることにも挑戦しようとする態度を育てる。</p>	①生徒の夢や願いの実現に向けて、島内における進路指導の充実を図る。	A	<p>○昨年度及び今年度で開拓した島内の企業11社のうち5社で、今年度の現場実習を実施することができた。数社から今後の就職につながる高評価をいただいた。</p> <p>○今年度の卒業予定者2名が、島内の一般企業から内定をいただいている。(R8.1月現在)</p> <p>○障害者就業・生活支援センターと連携しながら、2月に開催予定の企業向け学校見学会の内容についての検討を行った。本分教室から提案した企業との情報交換の時間を取り入れていただくことができた</p>
		②一人一人の教育的ニーズを踏まえた教科指導の在り方及び学習グループの検討を行う。	B	<p>○集団活動に入ることが難しい生徒に対して、別室にてリモート学習ができる環境を整えた。他の生徒と少しずつ関わりをもてるようになってきている生徒がおり、集団活動に入る場面も見られるようになってきた。</p> <p>●別室対応の生徒が複数名いた場合の職員配置や授業内容、評価の在り方については、今後も課題である。</p>
		③ICT機器を有効活用した指導の充実と、学習意欲や学習効果の向上を図る。	A	<p>○各教科において、様々なICT機器アプリ等を活用して、生徒の興味をひく工夫した授業が展開されている。</p> <p>○各教科や総合的な探究の時間において、ICT機器を活用し、理解を深めたり、学んだ内容をまとめて発表したりすることができた。</p>
		④対馬市教育委員会等と連携を深めながら、対馬市における特別支援教育の理解・啓発及び充実を図る。	B	<p>○対馬市教育委員会と連携して、夏季休業中に「対馬版の個別的教育支援計画について」のTUNAGU研修会を実施した。参加者からは参考になったとの意見が多かった。</p> <p>○HPをこまめに更新することによりHPの閲覧者数が増加した。また、教育相談の件数や学校公開への参加者も増加した。</p> <p>●生徒募集説明会後になって、本分教室が把握できていない受検希望者に関する相談などがあつた。分校化に向けても対馬市教育委員会とさらに連携して、早期の教育相談や学校見学への参加を呼び掛ける必要性を感じた。</p>
		⑤本校事務室・対馬高校との連絡を密に図り、教育環境改善への取組を推進する。	A	<p>○本校事務室と密に連絡を取ることができている。備品等の購入により、教材・教具の充実が図られ、生徒たちの学習意欲を高めることができた。</p> <p>○対馬高校と調整を行い、特別教室を借用して、PC授業や調理実習などを実施することができた。また、農作業を行うことができる区画も拡大することができ、教育環境を改善することができている。</p>

令和7年度<自己評価表2:各分掌部等の取組>

【評価基準】 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教 務 部	<p>○学校教育目標を達成するために、教育計画の企画立案及び連絡調整を図り、効果的な教育活動の推進に努める。</p> <p>○教務事務を的確に処理し、学校運営の円滑化を図る。</p>	<p>①各部における教育課程の実施状況及び課題を把握し、小・中・高一貫した系統性のある指導を展開するためのシステム及びツールの検討に取り組む。</p>	B	<p>○教育課程の実施状況及び課題については、校内研究と関連させながら、各部でグループを編成して、生活単元学習及び国語・算数(数学)について、令和7年度の実施状況の振り返りや記録、時数の適正化について検討できた。</p> <p>●各部の年間指導計画を比較したときに、様式や記載方法が異なっていることなどから、実施時期(期間)が分かりづらいものがあったり、学校行事との関連がつかみにくく感じたりすることがあった。</p>
		<p>②教務内規及び各部教務細則の整備を通して、教育事務の円滑な遂行と各部間における処理等の共通化を図る。</p>	B	<p>○年度始めの起案及び5月の教務主任研修会での説明を反映させた更新を行い、周知することができた。</p> <p>○オンラインを活用した授業について、出欠の取扱いの整理を行うことができ、高等部では2学期以降、複数の生徒に対し授業機会の確保に努めることができた。</p> <p>●出席簿や会計簿など、各部で共通化できていないところがあると感じられるので、教務内規を基本として共通化を図りたい。</p>

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
②	<p>・会計簿の取扱いについては、事務室とも連携し、令和8年度の1学期を目途に改訂に向けて協議を進める。</p> <p>・オンラインを活用した授業及び出欠の取扱いについて、未整備の学部については、令和8年度4月からの運用ができるよう、準備を進める。</p>

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
研究・研修部	○小・中・高の系統性のある指導の充実を図る。 ○児童生徒一人一人に応じた指導・支援の充実を図るため、職員の専門性向上を目指す。	①校内研究において、主に、国語・算数(数学)、職業・家庭(職業分野)、職業科、生活単元学習の指導内容の整理を行う。	A	○各部で指導内容の整理や指導内容の状況確認を行うことができた。また、整理した内容を各部内で共有し、次年度の教育課程および年間指導計画の改善の材料として活用することができた。
		②教務部や進路指導部、自立活動部など関係分掌や各種委員会と連携を図りながら校内研究を進める。	A	○その都度、進捗状況や取り組み方などについて、関係主任と連絡を取りながら行うことができた。 ○教育課程委員会の内容を教務部員と研究・研修部員とで共有する場を設定できた。
		③校内研究において、各実践(ICTの活用、自閉症児に対する実践、キャリアパスポートの活用)を行い、課題点や改善点を検討したり、それらを共有したりする。	A	○校内研究での実践で、活発に意見交換や協議を行うことができた。それに伴い、ICT活用や自閉症児への特性に対する指導、キャリアパスポートの運用について、意識の高まりを感じた。3月の全体研究会にて校内での共有を行う。
		④初任研・経年研・中堅研等の研修の充実を図るため、研究授業や授業研究会等の校内計画をまとめる。	B	○年度初めに研修計画等を作成し、先生方へ周知できた。二学期中にはほぼすべての研究授業を終えるなど、計画的に取り組んでいただけた。 ○初任者研修では、校内や地区の様々な研修に取り組んだことで、特別支援教育に関する知見と実践的指導力を高めることができた。 ●授業研究会等の数が今年度は計38回と多く、日程調整の難しさがあった。また、会によっては参加人数が極端に少ない場合があった。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
④	研修のねらいを達成できるよう、本校の状況をふまえ、『経年研に係る「授業研修」及び「メンター研修」の基本方針』の見直しを行う。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
生活・生徒指導部	<p>○児童生徒一人一人の命と人権を尊重し、集団の一員として学校生活、家庭生活、社会生活を豊かに営む指導を行う。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立を図りながら、社会的規範意識の涵養に努め、問題行動等を未然に防止する。</p> <p>○学校生活において自律心を持ち、安全かつ安心して行動できるよう、安全教育(交通事故、犯罪への対応等)の徹底を図る。</p> <p>○自分の力を最大限発揮し、生徒自らがチャレンジ精神をもって、学校を活性化させていく活動ができる児童生徒会を目指す。</p>	①学校生活アンケートの実施、行動観察等による実態把握を行い、児童生徒一人一人が安心・安全な学校生活を送ることができるような支援や指導に努める。	A	<p>○全学部、2回の「学校生活アンケート」を予定通り実施できた。今後も日常の行動観察を行い安心、安全な学校生活を送れるように努めていく。</p> <p>○児童生徒の実態に合わせて、アンケートの様式を変更し、実施できた。</p>
		②携帯電話やスマートフォンの指導では、本校が抱える課題と向き合い、保護者・全教職員との連携を図り、いじめや問題行動等を未然に防げるように努める。	B	<p>○スクールサポーターを活用し、情報モラルやSNSでのトラブル、スマートフォンの使い方について学習した。夏休みにトラブルに巻き込まれないように、夏休み前に実施した。</p> <p>●SNSを通じてトラブル事案が起きているので、継続した指導が必要である。</p>
		③交通安全教室、携帯電話・スマートフォン安全教室、不審者対応訓練等を実施し、スクールサポーターと連携しながら安全教育の充実を図る。	A	○各研修等は、スクールサポーターとの事前打ち合わせを計画的に行えた。不審者対応訓練は、体調不良等で急遽、実施月を変更したが、日程調整等担当職員を中心に迅速に対応できた。
		④挨拶運動、集会活動、委員会活動等の児童生徒会活動を計画的に行い、児童生徒が自主的に活動し、楽しく活動できるように努める。	A	○各学部の挨拶運動、集会は、児童生徒会が中心となって予定通り実施することができた。児童数の増加が見込まれている現状を考え、集会の回数を検討していく。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
防 災 対 策 部	○地震・津波・豪雨等の自然災害や火災等から児童生徒を守るため、事前の危機管理(体制整備、点検、避難訓練)、発生時の危機管理(初期対応、二次避難)、事後の危機管理(安否確認)、引き渡しと待機等についての組織的対応の推進を図る。 ○災害発生時、本校が避難所を開設する際の体制整備を行う。	①緊急時の手順、役割分担等、実際に機能するための避難訓練の充実と、教職員一人一人安全管理意識の向上を図る。	B	○昨年度の反省を踏まえて、避難訓練の通報までの流れを変更し、スムーズに取り組むことができた。 ●マニュアルの確認を避難訓練の度に確認を促しているが、熟知するにはある程度の時間や読む機会が必要だと感じる。
		②ろう学校との連携及び校舎増築に伴う各種訓練の見直しを行い、その課題の解決を図る。	B	○新高等部棟を含めた避難訓練を行い、避難経路を含めて改善点をアンケートで集約し、次年度の訓練に向けて検討した。 ●新高等部棟の避難経路図をマニュアルに反映するのが難しく、次年度のマニュアルに向けて進めていく。 ●ろう学校との連携については、分掌部として機会をもつことができなかった。ろう学校との連携は、実質教務部が行っているため、分掌業務から外してもよいのではないかと考えている。
		③災害時の備品、備蓄品の洗い出しと管理をする。	A	○備品、備蓄品の管理を他の分掌部と共に行い、保管場所、個数の確認をすることができた。 ○非常食の試食を今年度は五目御飯で実施し、新たに防災カレーを約500食購入した。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
①	マニュアルの内容の周知について、何度初めの説明会だけでなく、避難訓練の前に確認をしていただくように職員会議やポータルで呼びかけをする。 新しい避難経路図については、現状では、データがないとマニュアルに反映することが難しいので、事務室に相談をして、新年度の学校要覧に載せる避難経路図のデータをいただけないか相談する。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教育環境整備部	○安心、安全で健康な職場づくり、児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成のために4s(整理、整頓、清掃、清潔)活動を促す。	①安全な教育活動に向け、学校全体で環境整備に取り組む。また、新高等部棟の環境整備と掃除の仕方などのルールの周知徹底を図る。 ②毎週水曜日は職員室清掃であることを引き続き意識できるよう、各部で声掛けを行い、必要な清掃用具を準備する。職員室掃除に加えた学部割り当ての特別教室等の掃除の徹底を図る。	B	○虹のホールや特別教室の清掃が行き届かないという昨年度の反省を受けて、各部の職員室清掃に加えて各部に掃除場所を割り振った。それにより、昨年度より清掃が行き届いていた。 ●毎週火曜日の印刷室の段ボールの処理が徹底されていないので、周知徹底を図った。 ○今年2年目を迎える新高等部棟の清掃が軌道に乗った。
	○事務室と連携しながら、校舎内外の施設設備の整備・充実に努める。	③毎月の安全点検では、各個人に割り当てた点検表と遊具の点検の二つを実施し、速やかに管理職からの確認をもらう。また、事務室と連携して校舎内外の整備に当たる。	B	○安全点検で挙げられた不具合箇所を教育環境整備部で初期対応してから事務に繋げた。 ●校舎の老朽化に伴い不具合箇所が増え部員の過重労働になっている。用務員の配置を要望したい。
	○環境教育を意識し、ごみの減量や分別、節電などの省エネ環境の充実に努める。	④通常のごみや資源ごみなどが正しく処分されているか係で点検し、分別処理の意識を高める。	A	○分別が分からないものについては、事務に確認し、適切な分別処理ができています。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
③	「校舎の老朽化に伴い不具合箇所が増え部員の過重労働になっている」のは、教員が何をどこまで補修(対応)するのかなど、業務内容が曖昧であるためである。教育環境整備部の業務内容を精査し、「可視化」することを通して、業務の精選に繋げたい。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
体育・健康部	<p>○個々の能力や特性に応じた身体活動を通して、体力の向上と心身の調和的発達を目指す。また、児童生徒が安全で楽しく活動できるよう体育設備・用具などの整備に努める。</p> <p>○健康や安全、衛生面に対する意識を高め、健康の保持増進と基本的な生活習慣が確立できるように努める。</p> <p>○児童生徒が自らの食生活について考える習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送ることができるように食育学習の充実を図る。</p>	①朝の運動や体育、保健体育の時間に向けて、運動場、体育館の整備や体育倉庫の整理整頓、体育用品の管理を徹底し、児童生徒が安全で楽しく活動できるようにするとともに、運動量を確保し、体力の向上に努める。	A	<p>○体育館倉庫の荷物の移動、小中学部等の階段下倉庫の整理により、体育館倉庫が整理され、安全に利用しやすくなった。また、道具の利用についても、探しやすくなり、活用しやすくなった。</p> <p>○高等部棟横運動場を活用するなど、できる範囲で運動場所の確保を行った。継続して運動量の確保をしていきたい。</p>
		②動画、イラスト等を活用しながら健康や衛生面に対する意識を高めるとともに、手洗いやうがいなどの定着を図るなど、感染症等防止対策の徹底や健康の保持増進、基本的な生活習慣を確立できるように努める。	A	<p>○保健体育の授業や委員会活動などを活用し、意識を高め、感染症の予防や基本的な生活習慣の定着に努めた。</p> <p>○手洗いチェッカーの利用は有効であった。さらに活用を進めたい。</p>
		③学校における食の安全と衛生面に対する意識を高めるとともに、食に関する指導の年間計画などを授業や給食時の指導に生かし、掲示等を活用し、食育活動の充実に努める。	B	<p>○食物アレルギーの対応は、確実に行うことができたので、今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>●栄養教諭が作成した食堂前の掲示の有効活用が難しかった。</p> <p>給食の時間の指導などで、もっと各月の目標を意識させるように指導の工夫が必要であった。</p>

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
③	・年間計画が給食の時間の指導などに、より生かせるように、栄養教諭が作成している廊下掲示を写真に撮り、小学部、中学部の指導に使いやすくするなど工夫して各月の給食目標を意識させるようにする。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
進路指導部	○中高の系統性のあるキャリア教育の実践	①作業体験等を通して、キャリアパスポートを見直す。	B	○キャリアパスポートは定着してきている。 ●作業学習と関連付けた指導があまりできなかった。(高)
	○児童生徒の進路に繋がる企業や事業所等の情報提供の充実を図る。	②大村市との共催する相談会の実施。 ③各学部で進路だよりを発行する。	B	○1、2学期に1回ずつ進路だよりを発行した。(小・中)3学期は進路研修会のアンケートを反映した内容にする予定(小) ○2学期までに4回進路だよりを発行した。(高) ○8月に未来デザイン相談会を大村市と共催で実施した。次年度も8月に実施予定。 ●参加者が増える方法を検討し、進路に対する意識を高めていきたい。
	○企業や関係機関と連携し、効果的な進路指導を行う。	④情報交換会等で企業へ特別支援学校の取り組みを伝える。 ⑤企業や関係機関を招いた進路学習を実施する。	B	○TUNAG プロジェクトで中小企業家同友会大村支部と連携することができ、新規企業開拓につながった。 ○職場見学では関連機関と連携して学習を進めることができた。 ●企業等を招いた進路学習が実施できなかった。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
①	次年度は中学部3年生の高等部作業体験の時数を増やすので、キャリアパスポートをはじめとした中高のキャリア教育の充実を図るための、検討会を実施する。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
情報文化部	<p>○文化的行事の企画・営を行い、児童生徒が文化や芸術に親しみながら、自律心をもって主体的に表現し、学習活動の成果を発表できる環境作りを行う。</p> <p>○「地域に開かれた学校」において、積極的な情報発信を行うための環境整備を行う。</p> <p>○情報機器の管理や整備、セキュリティの保守を行うとともに、個人情報の危機管理について職員への周知や研修を行う。</p> <p>○視聴覚機器・機材及び図書の本整備に努め、教師が ICT 機器を効果的に活用し、児童生徒が学びやすく可能性を最大限発揮できる環境作りを目指す。</p>	①児童生徒が自律心をもって主体的に表現できる文化的活動の企画運営を行うとともに、学習活動の成果を発表できる校内の環境を整える。	B	<p>○虹のまつりを計画通りに進めることができ、学習の成果を十分に発表できた。他学部の予行練習を参観するなど、キャリア教育の視点でも計画をすることができた。</p> <p>●アンケート結果より、高等部の虹のまつりでは、学習発表のみにできると、時間や内容も充実するのではないかと感じた。</p>
		②本校教育の広報活動と魅力の積極的な発信に向け、学校ホームページの整理や学校全体としての活用の促進を図る。	A	<p>○学校ホームページの整理を行い、積極的な情報発信を行うことができた。</p> <p>○夏休み作品展の見直しを行った。校内掲示板など、保護者来校の行事に合わせて、学習の成果を発信することができた。</p>
		③校務を中心としたクラウドサービスの活用を進めるとともに、情報資産を取り扱う上での職員の情報セキュリティに対する意識の向上とカラー印刷の負担軽減、情報機器貸し出しの徹底を図る。	B	<p>○会議資料配布に Teams を利用したり、アンケート集計に Forms を活用することで業務を円滑に行うことができています。</p> <p>○カラー印刷を複合機へ移行し、職員の業務負担軽減に繋がっている。</p> <p>●クラウドサービスの利用方法やパスワードの管理方法など、考えていく必要がある。</p>
		④児童生徒の学習機器や図書環境整備に努め、年間を通じた児童生徒用タブレットパソコンの持ち帰りを実施するとともに、指導用端末を活用した職員の ICT 機器活用スキル向上に努める。	B	<p>○リモート接続しての遠隔授業など実施を行うことができた。</p> <p>●ICT 機器の効果的な活用に向けて、情報の周知や研修等進めていく必要がある。</p>

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
③	情報セキュリティの改訂に伴い、情報資産の取り扱いやクラウドサービスの利用について研修会の実施やパスワードの管理表を活用し、整理していく。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教育支援部	○個別の教育支援計画の作成を通して、教員・保護者・関係諸機関の一層の連携を図る。	①個別の教育支援計画作成及び評価時に自立の姿につながる支援目標の設定や根拠に基づいた評価を円滑に行う仕組みの整備や作成の支援を行う。	A	○分掌部員全員で、作成及び評価の留意点をまとめたものを指標にして、担任が作成した児童生徒の個別の教育支援計画を確認できた。
	○近隣の小・中学校等との交流及び共同学習、地域住民との交流活動の一層の充実を図る。	②学校見学会や学校公開が適切な就学や進学、本校の理解推進につながることを目的とし、対象者に確実な案内や情報提供を行う。	A	○参加者に納得いただける日程や内容で開催できた。 ●来年度の開催方法については、本校の方針を踏まえ、変更が必要である。
	○特別支援学校が行うセンター的機能の内容の啓発とともに、特別支援教育の充実につながる発信を行う。	③近隣市教委が開催するコーディネーター研修会等の参加や大村地区特別支援教育連絡協議会の夏季研修会の運営を通して、能動的な教育活動を推進する提案や進行を行う。	A	○夏季研修会については、分掌部員全員で準備及び運営にあたり、無事、終了できた。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
②	学校見学会については、小中学部と高等部とで時期を分けて実施することとなり、高等部に関しては主の担当として教務部が担うこととなった。それを受けて、教育支援部で協力する内容や小中学部対象の学校見学会の開催期日や日程等を再度検討し、来年度の実施に向けた方向性を分掌部内で今年度中に整理する。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
自立活動部	○学習指導要領解説に示された6区分27項目や実態把握から具体的な指導内容の設定まで手続きと要点の理解を深めるとともに、作成した個別の指導計画(自立活動)を基にした指導力の向上を目指した校内支援を行う。	①学習指導要領に示された6区分27項目の理解と、課題関連図に基づいた指導計画の策定に係る教師の専門性を向上させるため、実態把握から指導内容の設定までの手続きと要点について、研修・検討の場の設定や情報の提供等を行う。	A	○4月に実施した自立活動研修会では、基礎編とステップアップ編の2種類の内容を設定し、教師の力量に応じて参加するようにした。さらに、情報整理シートと自立活動の個別の指導計画の作成時に作成する際のポイントを自立活動部員が学部会で説明する、6月に検討週間を設定し、若手教師が作成したものの検討に自立活動専任が参加し、若手教師や同じ学級の教師に具体的な指導内容設定までの手続きや考え方について補足説明をする、提出された情報整理シートや個別の指導計画を自立活動部員が読み気付きを伝えるなどすることができた。
		②指導実践に係る教師の専門性を向上させるため、外部専門家や自立活動専任等を活用した校内支援や、外部専門家活用事業個別相談会や自立活動の研究授業を中心とした教師の省察の場の設定をする。	B	○自立活動の研究授業に関しては、自立活動専任が研究授業の前から授業を参観し、授業後の評価、振り返りを一緒に行いながら授業改善を繰り返した。 ○外部専門家活用事業に係る相談会では、専門家の助言と併せて専任が年間を通して相談した教師に対して省察を促す働き掛けを行うことで、自身の考えや気付きを言語化しながら整理し、生徒の実態や中心課題とその背景要因に何度も立ち戻りながら指導改善をすることにつながった。 ●指導実践に係る教師の専門性については、児童生徒一人一人の課題や背景要因を踏まえて集団での時間における指導を実施できるよう、教師の力量を高めていく必要がある。
		③教師が6区分27項目に照らした児童生徒の実態把握と、それを基にした課題の整理を行うことを支えるツールとして校内研究と連携しながら統一した様式の「改訂版実態把握のためのチェックリスト(仮)」を完成させ、令和8年度から運用できるようにする。	A	○研究部と自立活動部の担当者が集まる担当者会を設定し、学部ごとに検討している内容について共有したり、研究を進める中で生じた検討事項について、どのように進めていくか話し合いをしたりしながらグループ研究会を実施した。チェックリストの項目を検討するには、グループ研究では人数も時間も限られていたが、研究会の中で活発に意見を出し合いながら検討を重ね、チェックリストを完成させることができた。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
②	一人一人の目標を達成させる集団の自立活動の時間における指導について次年度の自立活動研修会の中で取り上げ、グループ編成をする際にも確認をする。また、今年度同様、初任者、採用2年目の教師の研究授業を自立活動で実施することとし、その他の若手教師にも自立活動の研究授業の実施を働き掛け、自立活動専任や自立活動部員が十分に関わりながら授業づくりと改善を行う。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
舎務部	○担任や家庭との連絡体制と連携体制を強化し、安心して安全な寄宿舍運営の推進	①部屋担当間、棟全体、学級担任との間で情報を共有し、丁寧かつ迅速な対応を行う。	A	○部主事、学年学科主任、学級担任と必要に応じて迅速に連携を図ることができた。特に現場実習では、詳細な点まで共通理解が図れるようになった。
	○寄宿舍で生活する生徒の日常生活と余暇活動の充実	②卒業後の生活を見越した自立に向けた支援体制の充実と、リラックスできる環境作りを行う。	A	○生活自立に向けた支援体制では、卒業生講話を通して見通しをもたせることができた。 ○職員と舎生間で情報交換や趣味の話など、リラックスしてコミュニケーションを図ることもできた。
	○寄宿舍通信の計画的な発行、ホームページへの掲載を行う。	③年間を通して計画的に発行し、寄宿舍生の生活の様子や行事の様子について、保護者に積極的に発信する。	B	●11月の発行ができなかったが、年間を通して概ね順調に発行できた。 来年度は学期2回の発行で計画していきたい。

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)	
事務部	○児童生徒の安全を守り、社会の変化に対応した教育環境を整備するため、計画的に改修工事を行うとともに、学校の管理運営に要する経費を確保することで、効率的な教育活動が展開できるようにする。	①校舎老朽化に伴う外壁及び教育環境の改善への取組を推進する。	A	○管理棟及び中学部棟の大規模改修工事については、毎週施工業者と打ち合わせを行い、大きなトラブルなく工期内に完了することができた。 ○要望があがっていた作業棟の空調設備については、本年度整備ができる見込みである。	
		○適正かつ迅速な事務処理を行うとともに、明るく働きやすい職場環境づくりに努めることで、保護者の信頼に応える。	②対馬分校化(令和9年度)に向け関係機関と連携を図り、円滑に業務を遂行する。	A	○分校開校化に向けたタイムスケジュール表を作成し、そのスケジュール表どおりに遂行することができた。 ○次年度の初度調弁にかかる予算については、一定程度確保できる見込みである。
		③「チーム事務室」として、働きやすい職場環境づくりに努めるとともに、研修に積極的に参加する。	A	○分からない事があった場合は、正副担当で協議をしながら、適正な事務処理を行うことができた。 ○事務職員全員が1回以上研修に参加することができた。	